

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間(中央値)便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。
2	B型肝炎	Hepatology 2006; 44: 99-107	HBV表面抗原(HBsAg)検査とミニプール核酸増幅検査(NAT)により、アフレーシス(血漿/血小板)ドナー1例が、急性HBV感染と診断され、2週間後の抗HBc(IgM)と抗HBsの検出により確定された。ドナーは臨床症状を示さず、ALT値も正常であった。ドナーおよび各レシピエントの保存検体を高感度HBV NATsにより検査したところ、ドナーの過去の献血検体だけでなく、濃縮血小板を輸血された2例のレシピエントからもHBV DNAが検出され、さらに全例が遺伝子型タイプG単独感染であることが明らかとなった。
3	B型肝炎	ProMED-mail20060921	京都市の洛和会音羽病院において、透析治療を受けていた50代～70代の患者8例が2006年8月にB型肝炎に罹患し、このうち5例は入院していることを、2006年9月20日に同病院関係者が発表した。病院および京都市は、院内感染として扱っており、これら8例が同時期に感染した可能性があるという結論が出された後、病院は、2006年9月11日に市に対して注意を促し、器具の消毒を行った。
4	B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 2028-2029	2004年10月、神奈川県赤十字血液センターは輸血後HBV感染疑い症例の報告を受けた。供血当時の検査では50プールNAT陰性だったにも関わらず、凍結検体がHBV個別NAT陽性となった供血者を特定した。この供血者の凍結血液40検体について個別NATを行ったところ、陰性と陽性があった。合計6例の輸血後HBV感染が特定された。この供血者におけるHBV DNAの量は50コピー/mL未満から200コピー/mLの間で増減していた。供血前に個別NATを行ったとしても、全てのHBVキャリアを排除できないことが示された。
5	B型肝炎C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1997-2003	健康歴の問診によって供血延期となった供血者497名を、4つの米国赤十字血液センターで募集し、血液感染症の血清マーカーについて血液検体を検査した。その結果、ウイルス肝炎リスクおよび静注薬物使用歴に関する標準的な供血者用問診にて供血停止となった供血者は、供血停止とならなかった供血者よりも肝炎マーカー陽性率が高い場合が多かった。その他のマーカーおよび質問について有意な知見は認めなかった。
6	C型肝炎	JAMA 2006; 296: 2005-2011	2004年10月15日にメリーランドで放射性医薬品注射剤を用いて心筋血流試験を行った患者16名に発生した急性HCV感染について調べた。患者はある薬局で調整された1つのバイアルの注射剤を投与されていた。その薬局では、注射剤を調製する12時間前に、HCVおよびHIVに罹患した患者の血液の放射線標識白血球測定を行っていた。この患者から得られたHCVのシークエンスは、当該16症例の配列とほぼ同一であった(相同性97.8%～98.5%)。生物由来製剤を取り扱う放射性医薬品薬局は、適切な無菌操作を行うべきである。
7	C型肝炎	血液製剤調査機構 Today's News 海外編 2007年1月	ワシントン大学の研究者が、初代肝細胞と患者血清を使用したC型肝炎ウイルス(HCV)の培養法を報告した。この培養法では、少なくとも2ヶ月間、ウイルスを産生し続けることが可能であり、産生されたウイルスは肝細胞に感染したと報告している。これまで、いくつかのHCV培養法が報告されているが、長期にわたりウイルスを産生できる方法はなかった。この研究はAm J Pathol 2007年170号に掲載されている。
8	E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
9	HHV-8感染	AABB Weekly Report 2006; 12(35): 9-10	2006年9月28日発行のN. Engl. J. Med.によれば、米CDCの研究者とウガンダの共同研究者らは、ヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陽性血液を輸血されたレシピエントにおけるセロコンバージョンのリスクを、HHV-8血清陰性血液を輸血されたレシピエントとの比較により算出した。ウガンダのKampalaで輸血前にHHV-8血清陰性の患者において、HHV-8血清陰性血液を輸血された群より、HHV-8血清陽性血液を輸血された群の方が、リスクが約3倍高いことが示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
10	HIV	CDC/MMWR 2006; 55(29); 793-796	2004年12月、多剤耐性(MDR), dual-tropic HIV-1株による感染が、抗レトロウイルス療法歴のないNew York City (NYC)の46歳男性で初めて診断された。この症例の接触者の公衆衛生調査、およびこのHIV株の有病率を推定するためNYC地域におけるHIV感染患者のウイルス遺伝子配列調査を行った。その結果、同様のリスク因子を有する3例の患者が特定され、これら3例は遺伝子タイプピングにより同じHIV株に感染していたことが明らかになった。
11	HIV	J Acquir Immune Defic Syndr 2006; 42: 248-255	2004年1月から2005年4月に、台湾でHIV-1感染した注射薬物使用者(IDUs)の分子疫学的研究を行った。HIV-1陽性131検体を調べたところ、128例でHIV-1 CRF07_BCが確認された。これは、中国のIDUsの間で優位に循環しているウイルス株に似ていた。23例は中国南西地方への旅行歴があり、そこで針や器具を共有していたことから、HIV-1 CRF07_BCは中国から台湾へ伝播した可能性が示唆された。
12	HIV	ProMED-mail20060920.2689	南カザフスタン州のShymkent市の小児病院において、輸血や注射を含む治療を受けていた小児55例がHIV感染と診断された。保健大臣は、この集団感染が輸血中の衛生水準の悪さ、使い捨て器具の再利用および血液ドナー登録システムの不備に起因するものと指摘した。当局は、病院でその血液が使用されたHIV感染が疑われる17例のドナーを捜索している。カザフスタンでは、2006年上半年に新規HIV感染者828例およびAIDS患者70例が登録されており、2005年の新規症例に比べ70%増である。
13	インフルエンザ	ProMED-mail20070108.0077	アイオワ州東部でブタインフルエンザ陽性患者1例が確定された。州当局は警戒の必要はないとしている。患者は入院せずに回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はなかった。このウイルスはヒトに感染しにくく、ヒトはかなり抵抗性を持っている。
14	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1295-1297	2006年2月にイラク北部の町で死亡したニワトリ、ガチョウ、ネコの組織でウイルス学的検査を実施したところ、インフルエンザA H5ウイルスが全ての種で検出された。またネコとガチョウ、および死亡したヒト由来のウイルスは、2005年に中国西部のQinghai湖のガチョウから分離された高病原性トリインフルエンザH5N1ウイルスと密接な関連があるQinghai様ウイルスであることが示された。
15	鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 2006; 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染患者258名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散発例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警報システムを堅持する必要がある。
16	鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 3655-3659	日本で分離されたH5N1トリインフルエンザAウイルス(A/chicken/Yamaguchi/7/2004)に感染し死亡したマウスから回収されたウイルスの病原性について調べた。脳から回収されたウイルスは全てPB2タンパクの627位のアミノ酸がGluからLysへ置換されており、マウス致死性は元のウイルスの約5万倍増加した。また627位にLysを含む変異型ウイルスは、元のウイルスよりもより迅速に重篤な障害をマウスに与えることが組織病理学的分析で明らかとなった。
17	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 16936-16941	南中国の市場調査による最新のウイルス学的及び疫学的所見によると、H5N1型鳥インフルエンザが様々な家禽において流行している。遺伝子及び抗原の分析から、2005年の後半以降、家禽において新たなH5N1型ウイルスの系統(福建様)が出現し、優勢となり、中国での最近のヒト感染を引き起こしていることが明らかになった。既に香港、ラオス、マレーシア、タイへ伝播している。市場の家禽におけるH5N1抗体陽転が低いことから、家禽へのワクチン接種が福建様系統の選択を助長している可能性が示唆された。
18	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061008.2890	Udayana大学獣医学部のチームは、バリで鳥インフルエンザウイルスがブタに感染したことを示す証拠を発見した。現在、さらに広範な規模の研究が進行中である。20頭のブタのうち、2頭がH5N1ウイルス感染陽性であった。鶏および鴨の飼育パターンによりこれらの動物がブタ小屋に自由に入れることから、ウイルスの接触感染が見込まれるということである。バリでは900,000頭のブタがウシと隣り合わせて飼育されている。
19	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061201.3394	WHOは、H5N1鳥インフルエンザウイルスにより光を当て、パンデミック株への変異の検出を容易にするために、H5N1鳥インフルエンザのヒト症例調査のためのガイドラインを発表した。14ページのガイドラインは、患者の問診、周辺で他の症例を捜索することによる接触歴の調査、ヒト-ヒト感染の何らかの徴候を発見するためのデータのふるいわけなど、各症例の徹底的な調査を求めている。ガイドラインでは、臨床検査の結果が出る前に疑い症例の調査を行うことを要請している。

No.	感染症(PT)	出典	概要
20	鳥インフルエンザ	農林水産省 プレスリリース 平成19年2月14日	宮崎県日向市、新富町、岡山県高梁市の鶏舎において高病原性鳥インフルエンザH5N1型が発生した。第3回高病原性鳥インフルエンザ感染経路究明チーム検討会では、国内へのウイルスの持ち込みについて、渡り鳥が関与している可能性を想定した。また、鶏舎内へのウイルスの持ち込みは、野生生物(野鳥、ネズミなど)が関与している可能性があることから、発生農場周辺の野生生物に関する調査や今回分離されたウイルスを用いて、アイガモ、マウス、ラットなどを用いた感受性(接種)試験を実施する必要がある。
21	ウエストナイルウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	アルゼンチン国内で初のウエストナイルウイルス感染例が確認された。ゴールドバ州で1件、チャコ州で3件あり、感染者10名のうち2名がウエストナイル熱を発症する可能性がある。コルドバ州での患者はここ数年、海外への渡航歴はないことから、地元において感染したものと推測される。
22	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20061214.3510	2006年、米国におけるウエストナイルウイルス感染のヒト症例は43州から4052例が報告され、うち1396例で脳炎や髄膜炎を発症、死亡例は146例だった。また、ウマ、トリ、蚊からのウイルス検出が報告されている。
23	ウエストナイルウイルス	Transfusion 2006; 46: 2036-2037	ウエストナイルウイルス(WNV)が輸血感染するとの認識により、米国とカナダではウイルスRNAに関する供血者の検査が迅速に導入された。最近の分析ではこの検査は費用対効果が低いと指摘されている。Custerらは、ミニプル検査と一部個別検査を組み合わせた通年の検査は、費用対効果は低い血液安全のためには最善の選択であるとしている。一方Korvesらは、検査の削減を提唱している。検査の効率性を問う必要はあるが、WNVスクリーニングを行う他の方法がないかを検討することも重要である。
24	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	FDAはBSEセーフガードとして医薬品や医療機器で、特定のウシ原料を禁止することを提案した。禁止される原料は、30月齢以上のウシの脳、頭蓋骨、眼および脊髄、全てのウシの扁桃腺および小腸の一部、へたりウシの全ての部位、検査を合格していないウシの全ての部位などである。
25	BSE	J Gen Virol 2006; 87: 2433-2441	4-6月齢時にBSE感染脳1gまたは100gを経口投与した乳牛を人工授精させ、出産後1週間以内と、授乳期間中10週間間隔で搾乳した。乳サンプルを遠心分離し、Bio-Rad Platelia ELISA法とSeprion-PAGE/Western blot法を用いて、BSEに関連する異常プリオンタンパクを分析した。分析方法の検出限界ではウシの乳の細胞分画から異常プリオンタンパクは検出されなかった。
26	BSE	ProMED-mail20060904.2519	最近、ドイツにおいて新しいvCJDの起源に関係する論文が発表された。フランス(H型)およびイタリア(L型またはBASE)で確認された2つの異なる異型BSE表現型に似た異型ドイツBSEが高齢のウシ2頭で明らかになった。両方のドイツ異型BSE例について、ウシPrP ^{Sc} を過剰発現するトランスジェニックマウスへ感染させることに成功した。L型感染マウスは、古典的BSE感染マウスよりも短い潜伏期間の後BSEを発症し、一方、H型では潜伏期間は非常に長かった。
27	BSE	ProMED-mail20061227.3621	カナダAlbertaで2006年8月9日に肉用牝牛が短期間の神経学的疾患の後、死亡したが、8月24日にBSEと確定診断された。カナダにおける8例目のBSE牛である。このウシは8から10歳と推定された。出生に関する追跡調査が行われたが、特定することはできなかった。
28	BSE	Vet J 2006; 171: 438-444	BSEに関連する臨床症状を30月齢以上の畜牛1008頭について調べ、死後検査により確定された結果と比較した。臨床的BSE状態は公表されている7つの異なった基準を用いて評価した。死後検査とマッチした997頭中1頭がBSEであった。そのBSE例はへたりウシ用の2つの症例定義によってのみ同定された。BSEに関連する臨床兆候の定義は多様であり、曖昧である。またBSEの兆候を隠すような他の病気があるとBSEが疑われなくなるかもしれない。
29	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006年12月15日 5-6ページ	米国で製造された血漿由来の第Ⅳ因子製剤による患者へのvCJD病原体伝播のリスクは、極めて低いと見られる。生物製剤評価調査センター(CBER)のSteven Anderson博士は、「しかし、リスクはゼロではない」と伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の本日の会合で話した。CBERは、2005年10月31日の委員会で提示されたコンピュータモデルと仮説に基づいたリスク分析案の概要を示した。重要度解析では、リスクを決定する主要な要素は、製造工程におけるvCJD感染因子の低減である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
30	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Public Health 2006; 6: 278	1993年から2002年までのヨーロッパCJD共同体11カ国における各種のヒト感染性海綿状脳症による年次死亡率、診断テストにおける変動を調べた。sCJDの病理学的確定症例の国家間隔差は、時間の変遷を問わず安定していた。英国、フランスではvCJD発症は高率であり、発症率が増加傾向であった。フランス、英国で医原性CJDの発症は高率であるが、減少傾向であった。スロバキア、イタリアにおける遺伝性CJDの発症は高率であり、時間の経過に関わらず安定していた。
31	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Can J Vet Res 2007; 71: 34-40	異常プリオン蛋白PrPScがコンポスト化により破壊されるかどうかを調べた。ファイバーグラスメッシュバッグにスクレイパーに自然感染したヒツジ由来の組織を入れ、コンポストパイル内に108日(実験1)または148日間(実験2)埋めたところ、実験1では組織残渣や周囲のおがくずからPrPScは検出されなかった。実験2では5例中4例でPrPScが検出された。組織残渣中の微生物16SリボソームDNAを調べたところ、実験1では実験2より多種の微生物が含まれており、グアニンとシトシン含有量が高く、好熱性微生物が優勢であることがわかった。
32	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。
33	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guardian 2006年7月12日	vCJD患者に多硫酸ペントサンナトリウム(PPS)を毎月、頭蓋内投与することで、全ての年齢層の患者で延命効果が見られた。この治療は脳組織の破壊を遅らせる。グラスゴー大学のIan Bone医師は「PPS治療を受けた患者は並外れて長期間生存しているようだが、治療を受けていない患者との直接比較が不可能なため、有効であるとは結論付けることはできない」と述べている。
34	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。この患者は生存している。
35	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
36	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ照会され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫ブロッティング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。
37	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイパーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。
38	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質Alicon Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁中にPrPScの前駆体であるPrPCを同定することができた。PrPCの絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中で $\mu\text{g}/\text{l}$ レンジ、ヒト乳汁中では ng/l レンジであった。PrPCは、均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温処理を施しても内因性PrPC濃度はわずかに減少しただけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感染源となる可能性を示唆する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
39	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。
40	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci U S A 2006; 103: 10759-10764	ヒトPrP 129MVヘテロ接合体トランスジェニックマウスを作成し、患者由来の3つのPRNP129遺伝子型CJDプリオンの伝播性を調べた。vCJDプリオンは100%の感染率を示し、15例中14例で脳内に4型PrPScが検出されたが、プリオン病の臨床症状は見られず、非florid PrPブランクが脳梁、脳幹、視床で観察された。またBSEプリオンの感染率は少なかった(41例中12例)。ヒトPRNP129ヘテロ接合体はウシBSEよりもヒトvCJDに感染の感受性がより高いことが示唆された。
41	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060623.1741	2006年6月22日にオランダ保健当局は、オランダで2例目の狂牛病患者を確定したと発表した。この患者は汚染した肉製品を食べたために感染したと思われるが、詳細は明らかにされていない。1例目は2005年にvCJDで死亡した26歳の女性である。
42	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060904.2519	2006年8月30日、香港保健当局はvCJD疑い症例が評価中であると発表した。患者は英国生まれの23歳男性で、2006年4月初めに香港に戻ってきた。vCJD様症状を示しており、扁桃組織が英国へ送られ検査されたが、陰性であった。今までのところ、vCJDと確定していない。
43	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061208.3468	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に汚染された輸血を受けた後、vCJDと診断された3例目が報告された。23才の時に輸血を受けた後に体調を崩し、7.5年後にvCJDと診断され、32才で死亡した。死亡後、扁桃腺組織検査によりvCJDが確認された。この症例は、献血後にvCJDを発症したドナーから輸血を受けたことが the National Blood Serviceにより特定されている66症例中の1例であった。
44	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)46名で、死亡患者総数は158名である。生存中のvCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。
45	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2006; 37: 695-703	と畜後すぐに採取した健康なウシの第一胃と結腸内容物を用いて、微生物集合体のPrPScを分解する能力を評価した。スクレイピー(263K株)を感染させたハムスターの脳ホモジネートと一緒に37°C、生理学的嫌気条件下で微生物集合体をインキュベートした。20時間以内に、PrPScは第一胃と結腸の微生物叢の両者によって免疫化学的に検出できないレベルに分解された。特にポリミキシン耐性(大部分がグラム陽性)菌がPrPSc分解能を示した。ウシの胃腸内の微生物叢に消化中にPrPScを分解する能力があることが実証された。
46	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91: 221-230	散在性(s)、家族性(f)および異型(v)クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)が輸血を介して感染伝播するかを判定するために、英国CJDサーベイランスユニットと血液サービスにより進行中の試験の2006年3月1日までの結果である。供血者として報告されたvCJD 31例中18例、sCJD 93例中3例およびfCJD 5例中3例の血液が、各々、66例、20例および11例の受血者へ輸血されていた。2例の受血者においてvCJDが確定していた。また、vCJD11例中7例、sCJD52例中7例が、輸血の既往歴があった。
47	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けた約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定されたvCJD1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
48	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	血液製剤調査機構 Today's News 2006年10月	ProMetic Life Sciences社と米国赤十字社との合併会社であるPathogen Removal and Diagnostic Technologies (PRDT)社は、同社のプリオン捕捉フィルターP-Captが欧州規制当局の認可(CEマーク)を取得したと製造販売パートナーのマコファーマ社と共同で公表した。P-Captには、PRDT社が特許を取得しているプリオン結合親和性樹脂が組み込まれており、当面は赤血球濃厚液中の伝達性海綿状脳症(TSE)病原体の除去に使用される。
49	アルツハイマー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	アルツハイマー病患者、または β -アミロイド前駆体タンパク質(APP)発現トランスジェニックマウスから得たアミロイド β (A β)含有脳抽出物の希釈液をAPPトランスジェニックマウスの大脳内に注射すると、時間と濃度に依存した大脳内の β -アミロイドシスとそれに伴う病変を誘発した。脳抽出物のシーディング活性は、A β 免疫除去、タンパク変性、またはA β を宿主に免疫することによって、低下または消失した。外因性に誘発させたアミロイドシスの表現型は、宿主と誘導物質の起源の両者に依存した。
50	ウイルス感染	GDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血と伴った原因不明の死亡例数例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日までに計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。6検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。
51	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 133-135	サポウイルスはヒト胃腸炎病原体であるが、日本で未処理排水、処理排水および川でサポウイルスを検出した。水検体69例中7例において逆転写PCRで陽性であった。ウイルス夾膜遺伝子の系統発生的分析により、これらの株は4つの遺伝子群に属していた。
52	ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトボカウイルス感染の疫学的プロフィールおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトボカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトボカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。
53	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 747-756	サイトメガロウイルス(CMV)、パルボウイルスB19 およびヒトヘルペスウイルス(HHV)7と胎盤感染との相関について調べた。2つのプロスペクティブおよび1つのレトロスペクティブコホートからの母子の検体について、multiplex PCRを用いた催奇形性病原体検査を実施したところ、105検体中13%で胎盤感染が認められた。胎児の死亡と関連する主な胎盤感染病原体はヒトCMVであった。
54	ウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2006; 25: 390-394	台湾の小児におけるSENVウイルス(SENV)感染の感染経路、輸血と肝疾患における役割を調べた。健康者および病気の小児由来の血清中のSENV-DおよびSENV-H DNAをPCRで検出したところ、サラセミアの小児、心臓手術中に輸血を受けた小児、慢性B型またはC型肝炎の小児、ならびに胆汁閉鎖の乳児ではSENV-D/H血症の有病率が有意に高かった。SENVは若年時に感染する割合が高く、輸血はSENV血症率を有意に増加させる。
55	ウイルス感染	ProMED-mail20060917.2650	2006年初頭以来、Bashkortostan共和国において1,600例が、腎症候性出血熱(HFRS)に罹患している。2005年と比較した罹患率は2倍を超えており、3例が死亡している。最近3、4年のHFRSの罹患率は低い傾向であったが、2005年から急激に上昇した。この現象は、HFRSウイルスを保有する野ネズミの高密度分布によりもたらされたと考えられている。専門家の見解によると、HFRSを罹患する可能性の高い危険な時期は、2006年の10月末まで延長することが見込まれている。
56	ウイルス感染	ProMED-mail20061014.2953	フランスCDCであるInVSによると、住民760000人のLa Reunionで、2005年3月から2006年9月末までに266000例のチクングンヤ患者が推定された。チクングンヤは246の重症例で証明されており、確定例の27%が死亡した。また、母子感染が44例報告された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
57	ウイルス感染	ProMED-mail20061223.3593	日本でノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加している。この疾患は従来食中毒とされてきたが、昨年の症例のうち生の貝類摂取に関連したものは15%しかなく、患者の吐瀉物や排泄物から、あるいはウイルスが手を介して食物や食器に付着することで間接的に感染することが多い。今シーズンのノロウイルス流行は主にヒト-ヒト感染によるものであり、変異による新たなウイルス株の流行と考えられる。2006年11月27日から12月3日までの間に、全国の約3000の医療機関から65,638人の感染患者が報告された。
58	ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニアGarissaの公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかったShanta Abakの129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニア北東部のIjara地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。
59	ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
60	ウイルス感染	第60回日本細菌学会東北支部総会 2006年8月24-25日	サイトメガロウイルス(CMV)が臓器移植の際にCMV抗体を有しているレシピエントに再感染した場合の影響を調べるため、術前ドナーおよびレシピエントに潜伏感染するCMVのタイプを検索しCMVが再感染する可能性がある組み合わせを同定し、移植術後の臨床経過を解析した。移植後急性拒絶反応はCMV再感染の組み合わせにおいて62%と他のグループ(25%、23%)に比し有意に高率であった。また、術後6ヶ月のCMV感染症発症率、アンチゲネミア陽性細胞数は初感染、再感染グループは中和グループより有意に高かった。
61	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2006; 55(25): 697-700	2005年8月~9月の間に、ニューハンプシャーHealth Human Serviceは東部ウマ脳炎ウイルス(EEEV)のヒト症例7例を報告したが、41年間の国家サーベイランスで初めての確定例である。同時期にマサチューセッツ公衆衛生局もEEEVヒト症例4例を報告したが、これは同州の過去10年間の報告例の年間平均の5倍に相当する。両州の患者11例中4例が死亡した。
62	エルシニア感染	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。ブタがヒトエルシニア症の重要な起源であることが示唆された。
63	クロストリジウム感染	第55回日本感染症学会東日本地方会総会 2006年10月26-27日 016	胸部打撲後、心肺停止、混合性アシドーシス、胸部筋組織の破壊像を伴う著明な気腫などを呈し、死亡した58歳男性の、死亡直前に採取された皮下気腫穿刺液を調べたところ、多数の偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出された。RNA遺伝子解析の結果、Clostridium chauvoeiと同定された。本菌は複数の同定キットでは明らかにできなかった。本菌は獣医学領域の病原菌として知られているが、ヒト感染症からの分離は初めてである。
64	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20060719.1985	2006年、ロシア南連邦管区Rostov地域において、クリミアコンゴ出血熱の罹患者数が増加している。これまでに47例(死亡5例を含む)が記録されている。2005年同期間には16例であった。クリミアコンゴ出血熱の増加は環境中のダニ密度の増加と関連がある。
65	コンゴ・クリミア出血熱	WHO/EPR 2006年8月8日	2006年1月1日~8月4日にトルコ保健省により、死亡20例を含むクリミアコンゴ出血熱の検査確定症例242例(症例致死率:8.3%)が報告された。このうち92症例および新規に報告された死亡例9例は、2006年6月30日以降の最新情報に該当する。死亡例のうち1例は、クリミアコンゴ出血熱症例の治療中に感染した医療従事者であった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
66	サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(11)	フランスで2005年8月から2006年3月の間に69例のSalmonella Manhattan感染が報告され、その内51例(74%)が南東部フランスからであった。聞き取り調査の結果、感染症例はポークソーセージと牛肉を食べた傾向が高かった。同時期に南東部フランスの肉製品からS. Manhattanが単離され、ヒトからの単離体とPFGEプロファイルで差がなかった。追跡調査により、ある食肉処理場でSalmonella spp.とS. Manhattanによる広範な汚染が明らかとなった。
67	サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060817	2006年7月21日に南ラトビアの小さな村で屋外村民休暇行事と関連する腸炎菌による胃腸炎の流行が起こり、7月22-25日まで続いた。聞き取り調査した107名の参加者の内49名が流行症例の評価基準を満たし(発病率46%)、検便の結果26検体中8例が腸炎菌陽性であった。レトロスペクティブコホート研究の結果、生卵で作ったフライドポーク料理が原因と考えられた。
68	スピロヘータ感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 869-870	様々な地域のブタ、ニワトリ、ヒト等から分離されたB. pilosicoli分離株107株とB. aalborgi 基準株(NCTC11492T)との関連性を調査するため、多座位酵素電気泳動(MLEE)解析を実施した。構成酵素の特徴が同一である分離株を1つの電気泳動型(ET)に群化した。その結果、B. pilosicoli 分離株は80ETに分類され、B. aalborgi とは明確に区別された。一般的に、起源の宿主種によって群化せず、特定の種に由来する分離株は系統樹全体に分布していた。
69	旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
70	チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングニヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
71	チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日	1月24日、厚生労働省はスリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。女性は2006年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。厚生省によると、チクングニヤ熱は発熱や関節炎、発疹などが特徴で、死亡率は極めて低い。蚊を介して感染し、人から人への感染はない。
72	デング熱	ProMED-mail20060624.1756	ベトナムHo Chi Minh市予防医学センターは、2006年初頭から約2,700例のデング熱症例を報告した。この症例数は、2005年の同期間と比較して2倍である。水道普及率が低い地区でデング熱の発生率が高い。
73	デング熱	ProMED-mail20060713.1935	2006年1~6月にフィリピンIloilo市で、デング熱10例(内3例は死亡例)が報告されているが、前年同時期の40例に比べると報告数は減少している。しかし、2005年1~6月にはデング熱による死亡例はなかった。ブラジルでは2006年6月末の首都Sao Pauloにおけるデング症例は、373例であり、2005年同時期の約10倍であった。
74	デング熱	ProMED-mail20060730.2110	ブラジルのRioでは、2006年7月17日現在、デング熱患者数は26712例に達し、2005年の10倍以上となった。この内、36例が出血熱で、5例が死亡した。Sao Paulo州Ribeirao Pretoではデング蚊蔓延指数が2005年の同時期に比べ、35%増加し、すでにデング熱確定患者は2182例となった。
75	デング熱	Public Health Agency of Canada 2006年10月13日	カナダ公衆衛生局は世界中のデング熱発生状況の監視を続け、旅行者に注意を呼びかけている。ブラジルでは2006年最初の30週で234068例、ドミニカ共和国では36週で3528例、エルサルバドルでは37週で17256例などと、2005年の総数より増加している。